資料一3

室生ダム貯水池水質保全事業 事後評価(案) 概要版

平成22年3月18日

近畿地方整備局



「室生ダム貯水池水質保全事業」

事後評価について

■ この報告書は、国土交通省所管公共事業の事後評価実施要領に基づき、平成16年度に完成した「室生ダム貯水池水質保全事業」の完了5年後の事後評価を行うものです。

- ●これまでの経緯
- •平成02年度 室生ダム貯水池水質保全事業 着手
- •平成16年度 室生ダム貯水池水質保全事業 完了
- •平成21年度 事後評価(事業完了後5年経過)

1. 室生ダム及び流域の概要

室生ダムは、名張川の支川宇陀川に位置し、洪水被害の軽減と奈良県営水道用水の供給を目的とした多目的ダムとして、昭和49年に完成した重力式コンクリートダムです。

室生ダムの概要

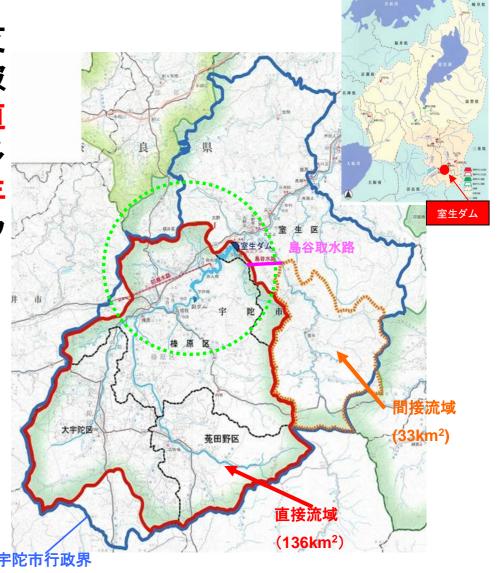
集水面積:166km2

内直接流域:133km2

内間接流域: 33km2

総貯水量:16,900,000m3

湛水面積:1.05km2



2. 事業の概要

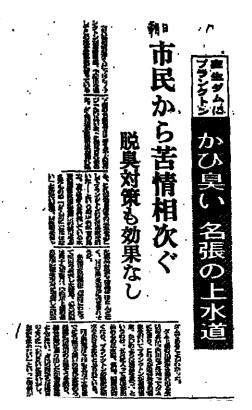
2-1 事業の背景

- 昭和49年の湛水直後から、ダム湖の富栄養化が見られた。
- 貯水池内ではアオコ現象が確認され景観障害が発生。
- 貯水池から直接取水を行う奈良県営水道や室 生ダム下流で取水を行う名張市営水道でカビ 臭が発生。

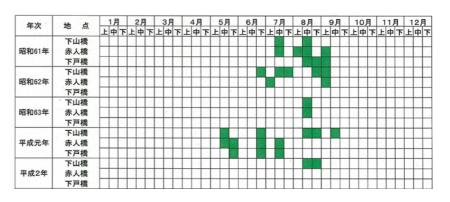


貯水池内における水質・景観改善が必要となる。





※朝日新聞 昭和51年6月15日



※ 緊急的に水質や水辺環境を改善するため、地域住民の協力のもと、清流ルネッサンス21協議会(平成5年発足)が中心となって取り組む計画

2-2 事業の経緯

「室生ダム貯水池及び宇陀川流域清流ルネッサンス21」

テーマ	基本理念	内 容	対象	改善目標(2000年)
	・良好かつ魅力ある	宇陀川とその支川の水質を、 子どもが遊べ、ホタルや魚がす みやすいレベルまで改善する	河川	BOD 1~2mg/L (環境基準:河JIIAA,A類型)
┃ 「うだ野の清らか	ダム貯水池環境の 保全と創出 ・地域の個性と生活 を支える河川環境 の保全と創出			COD 3mg/L(環境基準:湖沼A類型)
でやすらぎのあ る流れを21世紀 のこどもたちへ」		水道水源となる室生ダム貯水 池の水質を改善する	貯水池	T-P 0.03mg/L (異臭味対策を行っている浄水場の水質として適当と考えられるレベル)
		地域の水辺を、人々が憩え、ホ タルや魚、水草がいきいきする ように改善する	貯水池 河川	以下のような水辺環境の創出 ・親水性の高い水辺環境 ・良好な景観を形成する水辺環境 ・水生生物の生息に適した水辺環境

区分	各事業内容	実施者
河川 事業	·水質浄化事業 ·水辺環境整備事業	国交省、水機構、奈良県、 各市町村
下水道 事業	·流域下水道整備事業 ·関連公共下水道整備事業	各市町村、 (一部事務組合)
	•農業集落排水処理事業	大宇陀町
	•合併浄化槽の設置	 各市町村
流域	・家畜ふん尿処理の適正化	各事業者
対策	・家庭内でできる排水対策	各家庭
	•河川美化活動	各市町村(自治会)
	•河川愛護活動の啓発・支援	国交省、奈良県、各市町村

──〉【国土交通省(ダム事業者)としての取り組み】

平成2年度に室生クリーンアップレイク事業(現:ダム貯水池水質保全事業)採択後、水質保全施設(副ダム)、水質自動監視装置及びモニタリング調査による機能検討・効果把握の調査を実施し、アオコ等植物プランクトンの増殖の発生要因の一つである栄養塩類(T-P)の水質改善対策を行っています。

2-3 施設整備内容

【水質保全施設(副ダム)】

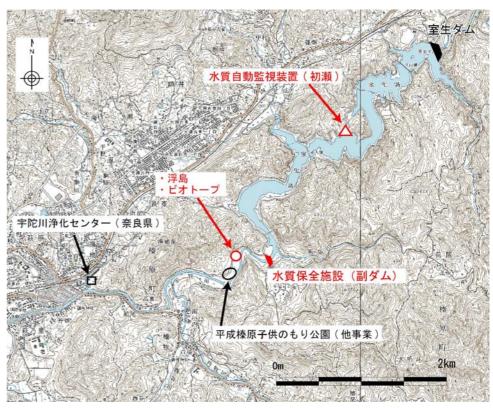
室生ダム貯水池の上流端に河川水を一時滞留させ、沈降粒子に含まれる栄養塩類(窒素、リンなど)を除去し、流入河川からのリン負荷を削減します。

【水質自動監視装置】

奈良県営水道取水口付近に良好な水質環境を管理することが出来るよう水質の常時監視を行います。







※赤字は本事業で実施した内容

2-4 水質保全施設(副ダム)

室生ダム貯水池の上流端に河川水を一時 滞留させ、沈降粒子に含まれる栄養塩類 (窒素、リンなど)を除去することにより流 入河川からのリン負荷を削減することを目 的として、平成13年3月に設置しました。 沈降した土砂は、天日乾燥後、湖外へ搬出 処分しています。

なお、浚渫のための水位低下設備として、 緊急放流用ラバーゲート(ゴム堰)を設置 しています。



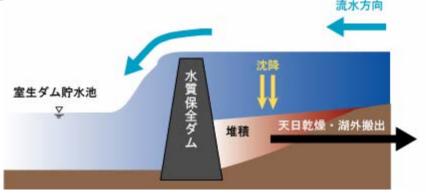
: T-P流入負荷削減量 約8.6kg/日※

T-P流入削減負荷量

- =【30.7kg/日(室生ダム流入負荷量(将来予測値)】
 - -【約22.1kg/日(目標値(T-P 0.02mg/L)

を達成するリン許容流入負荷量)】

=約8.6kg/日





諸元					
形式	重力式コンクリートダム				
堰高/堰頂高	14.5m / 114.0m				
越流頂標高	EL.294.5m				
貯水容量	245.000m ³				
集水面積	116km ²				
湛水面積	0.08km ²				
/→ ₩ ₹Л /#	緊急放流用ラバーゲート				
付帯設備 	排水ゲート、魚道				



■ 設置目的:水質の常時監視を行い、副ダムの効果を検証するとともに、値が

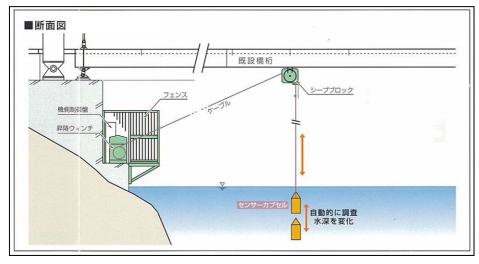
高い時には、水道事業者への情報伝達(電話連絡)することによ

り、処理の事前準備に活用

■ 設置位置:奈良県営水道取水口付近

■ 測定項目:pH、DO、水温、濁度、電導率、紫外線吸光度(CODに換算)、

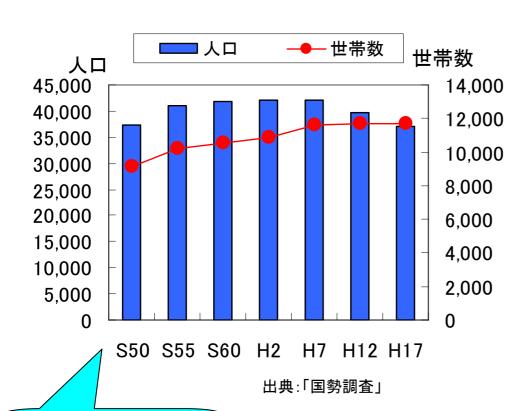
クロロフィルーa

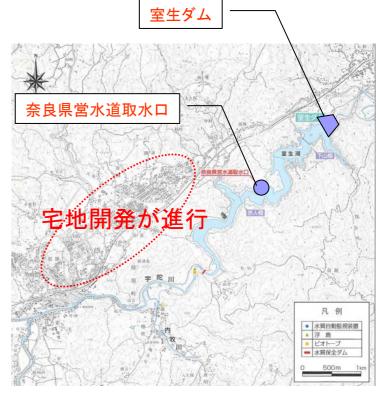




■流域内人口の推移

ダム流域に位置する宇陀市の人口は、ダム完成後の昭和50年代前半から ダム周辺で宅地開発が進み人口が増加しましたが、平成7年以降は減少傾向 にあります。しかしながら、世帯数は、核家族の進行により、人口が減少し始め た平成7年以降も横ばい状況にあります。





■下水道の整備状況

室生ダム完成後は、流域内において下水道整備がされていない状況でしたが、 室生ダムの水質保全を目的として宇陀川流域下水道が昭和55年より整備開始され、 昭和62年より供用が開始されました。

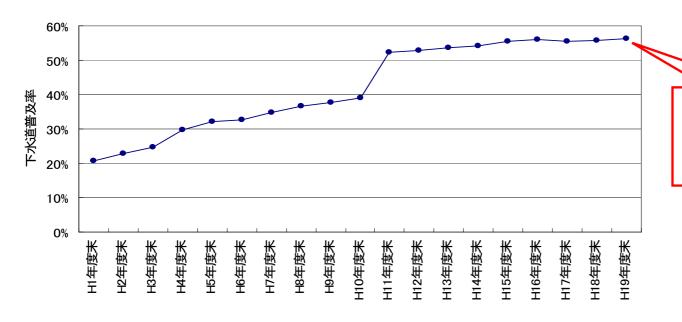
平成19年度末の段階では以下のとおりです。

〇下水道普及率:56.4%

- 【下水道の普及人口 20,920人】/【流域内人口 37,062人】

〇下水道接続率:86.1%

=【水洗便所設置人口 18,004人】/【下水道の普及人口 20,920人】



清流ルネッサンスにおける下水道普及率の目標64.6%(H12)に対して56.4%の状況である。

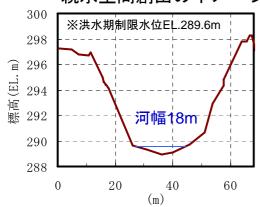
■観光動向

室生ダム貯水池の周辺には、室生赤目青山国定公園があり、東海道自然歩道も周囲に設定されている豊かな自然のある風光明媚な地域であり、行楽・観光に訪れる人々が多いです。

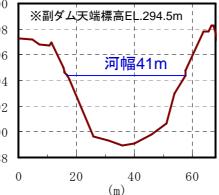
副ダムにより創出された湖面に位置する平成榛原子供の森公園は、平成13年に完成し、 毎年8~10万人前後の入園者数となっています。

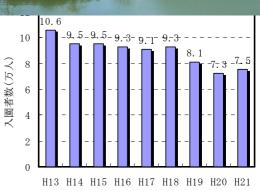








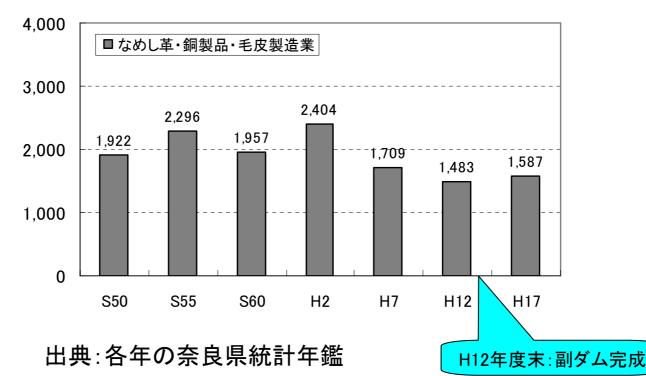




■室生ダム流域の工業出荷額の変化

室生ダム流域関連市町村の主な産業である「界面活性剤を使用する皮革産業(産業分類:なめし革・銅製品・毛皮製造業)」の工業出荷額は平成2年をピークに横ばい傾向にあります。

(単位:百万円)



3. 事業効果の発現状況

効果として考えられる項目

○アオコの発生状況 ○副ダムによるリンの削減状況 △ダム堆砂量の抑制 △ダム湖周辺の利用促進(親水空間の創出)

3-1 副ダムによるリンの削減状況

副ダムの設置に伴うリンの削減量と効果について、以下の手法による推定を行いました。

【推定手法】浚渫土砂のリン含有量からの推定

【対象期間】 平成17年(事業完了後)~平成20年

3-1 副ダムによるリンの削減状況

4ヶ年の浚渫により、副ダムに堆積した13,003kgのリンが削減されたと推定されます。

2/2 Sills &		(1)	(2)	-	(3)	(4)	(5)=(1)×(3) ×(1-(4))×砂の 単位体積重量	(6)= Σ (5)	(7) = (6)/365	(8)	(9) = (7)/(8)		
浚渫年度	土質	浚渫量	浚渫量計	浚渫位置	T-P含有量	含水率	T-P除去量	各年T-P 除去量	日あたりT-P 除去量	目標値	目標 達成率		
		(m3)	(m3)	-	(mg/g)	(%)	(kg)	(kg)	(kg/日)	(kg/日)	(%)		
	砂質土	250		A表	0.24	11.00	96						
	粘性土	40		A底	0.17	11.70	11						
H17	砂質土	2,010	2,840	B中表	0.30	7.50	1,004	1,806	4.9	8.6	57.5%		
	粘性土	400		B中底	1.15	40.10	496						
	粘性土	140		D	1.60	50.35	200						
	砂質土	220		B上	0.23	7.30	84						
H18	粘性土	910	1,930	B中底	1.15	40.10	1,128	2,353	2,353	2,353	6.4	8.6	75.0%
	粘性土	800		D	1.60	50.35	1,140						
H19	砂質土	970	4,070	B上	0.23	7.30	372	4,984	13.7	0.0	158.8%		
пів	粘性土	3,100	4,070	C底∙E	1.64	49.60	4,612	4,904	13.7	8.6	130.0%		
H20	砂質土	596	4,046	B中表	0.30	7.50	298	3,859	10.6	8.6	122.9%		
ПΖО	粘性土	3,450	4,040	C表·D表	0.83	30.90	3,562	3,009	10.0	0.0	122.9%		
合計		12,886	12,886		_	_	13,003	13,003	35.6	_	_		
平均	_	_	3,222	_	0.79	26.14	25,911	3,251	8.9	8.6	103.6%		

^{※「}浚渫位置」はH20年度底質調査における調査地点名で示した

[※]砂の単位体積重量は一般に用いられる1800kg/m3とした

[※]A地点はT-P含有量が表底逆転しているが、浚渫量が少ないことから、砂質土:表層、粘性土:底層とした。

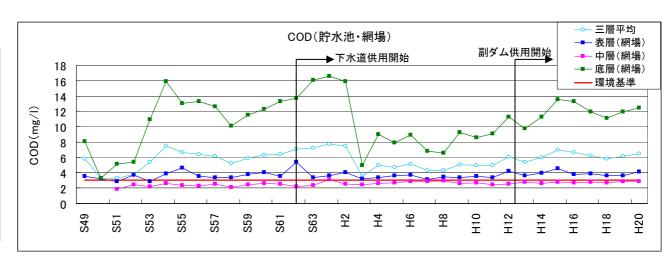
3-2 貯水池における水質の変化

室生ダム貯水池は湖沼の環境基準A類型に指定されています(栄養塩類(T-P)は指定なし)。

- ・COD: 貯水池中層では環境基準を満足していますが、それ以外は超過している
- •T-P:昭和58年以降の貯水池表層・中層は概ね参考値(環境基準類型)を満足している

【環境基準:A類型】

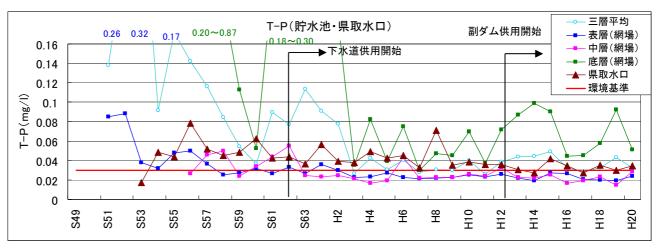
区分	基準値
COD	3mg/L以下
рН	6.5以上8.5下
SS	5mg/L以下
DO	7.5mg/L以上
大腸菌 群数	1,000MPN /100mL以下



【参考:T-P 環境基準】

類型	基準値
I	0.005mg/L以下
П	0.01mg/L以下
Ш	0.03mg/L以下
IV	0.05mg/L以下
V	0.1mg/L以下

Ⅲ:水道3級(前処理等を伴う 高度の浄水操作を行うもの)



3-3 アオコ等の発生状況の変化

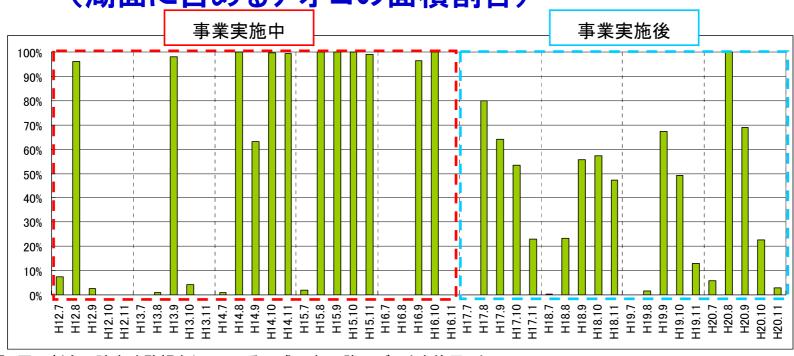
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	下水道普及率 (宇陀川流域)	備考
1993 年 (H5)	が水池主面 ケムサイト付近 湖心部 流入部付近 所水池周辺部の湾入部								8/1~31 570\$3743					53%	
1994 年 (H6)	所水池全面 タムサイト付近 湖心部 流入部付近 京入部付近 京外池周辺部の湾入部													55%	
1995 年 (H7)	所水池全面 タムサイト付近 湖心部 流入部付近 ・ 流入部付近													57%	
1996 年 (H8)	貯水池全面 ダムサイド付近 湖心部 流入部付近 旅入部付近													59%	
1997 年 (H9)	a 貯水池全面 ダムサイト付近 湖心部 流入部付近 所水池周辺部の湾入部													60%	
1998 年 (H10)	a 貯水池全面 ダムサイト付近 湖心部 流入部付近 流入部付近 時水池周辺部の湾入部			3/2~21 b c 褐色鞭毛灌				7/8~14 5 G 級運動		9/1 6 級蓬菊				61%	
1999 年 (H11)	a 貯水池全面 ダムサイト付近 湖心部 流入部付近 旅入部付近 貯水池周辺部の湾入部									9/30 c	10/14 b	11/11 b		62%	
2000 年 (H12)	a 貯水池全面 ダムサイト付近 湖心部 流入部付近 旅入部付近 貯水池周辺部の湾入部				4/17~4/25 d c ~ UT 4=7L		6/5~9 d c NJT 4=9L	6月下旬~9月中旬 ミクロキスティス		\$10	-27-12			63%	水質自動観測装置設置
2001 年 (H13)	a 貯水池全面 ダムサイト付近 湖心部 流入部付近 旅入部付近									9/27 9/19 d	10/3 10/22 d d d ミクロキスティス			64%	副ダム完成
2002 年 (H14)	a 貯水池全面 ダムサイト付近 湖心部 流入部付近 旅入部付近 貯水池周辺部の湾入部			3/20~27 定 珪藻類		5/2 5 1	9~6/12 6/2	7/30 7~7/1	8/8 b d c ミクロキスティス	ミケロキスティスが産生	10/15 日本 10	11/7 b d c	12/9	65%	
2003 年 (H15)	a 貯水池全面 ダムサイト付近 湖心部 流入部付近 旅入部付近 貯水池周辺部の湾入部					7.	6/4~6/11 7/2~ ミクロキン	7/24 7ステリオネラ 7/24 - 7/9 7/2 Id C ティス C アファニソ メノン	8/18 b d c 8/4 之7日丰ステ	9/16 a	10/7	11/17		67%	
2004 年 (H16)	a 貯水池全面 ダムサイト付近 湖心部 流入部付近 旅入部付近 貯水池周辺部の湾入部						6/11 6/16 たっチゥム	7/7 G ミクロキスティス	8/18 d	ミクロキスティス	11/			60%	
2005 年 (H17)	貯水池全面 ダムサイト付近 湖心部 流入部付近 貯水池周辺部の湾入部								8/4 C ミクロキスティス			11/18		注2)	貯水池水質保全事業 1年目 (浚渫開始)
2006 年 (H18)	a 貯水池全面 ダムサイド付近 湖心部 流入部付近 流入部付近 貯水池周辺部の湾入部								8/28	с с	11/ d	11/9		注2)	貯水池水質保全事業 2年目
2007 年 (H18)	m 貯水池全面 ダムサイト付近 対 がの部 流入部付近 所水池周辺部の湾入部								30	9/13 9/18 9/18 5)/25 10/1 ミクロキス・	11/12 11/2	30	注2)	貯水池水質保全事業 3年目
2008 年 (H20)	語 貯水池全面 タムサイト付近 湖心部 流入部付近 旅入部の湾入部							8/1	Ь	9/1 a ヰ ヰスティス	10/17				貯水池水質保全事業 4年目
凡例	WASSERS OF THE ASSESSMENT OF THE PARTY OF TH	淡刀	k赤潮	アオコ		水の華	冷濁水		その他					注2)	



事業実施中

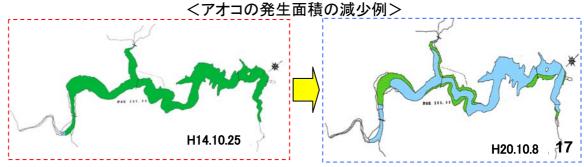
事業実施後

3-2 アオコの発生状況の変化 (湖面に占めるアオコの面積割合)



- ※1 週1回の割合で貯水池監視を行っている平成12年以降のデータを使用した。
- ※2 貯水位によって面積が異なることから、貯水池の面積に対してアオコが占める割合を求めた。
- ※3 前ページの発生状況の表は年変動・月変動を捉えることを目的として日変動を省略して表現しているのに対し、 本グラフの面積は月の最もアオコの発生面積が大きい日を抽出しているため、整合がとれていない部分もある。

事業中平均	事業後平均
47%	37%



3-4 室生ダムにおける水質改善結果のまとめ

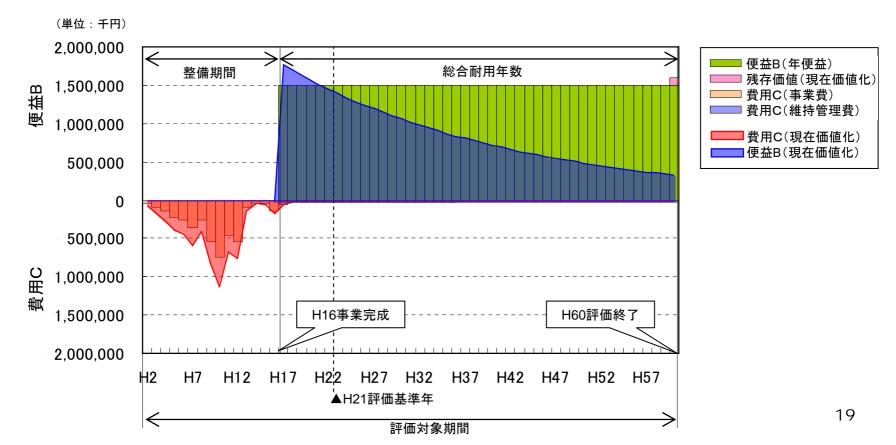
●副ダムの設置及び浚渫により、T-Pの削減効果が確認されました。

T-P除去量 13,003 kg(8.9 kg/日) = 目標値(8.6kg/日)の103%

- ●アオコの発生日数は変わっていませんが、発生する面積が 10%程度減少しました。
- ●現在、貯水池内において、水環境改善事業(曝気施設の設置)を実施しており(平成22年度完了予定)、本事業との相乗効果によりアオコの発生を抑制していきます。

4. 費用対効果の算定

- ■費用対効果は事業を実施したことによる便益(Benefit;事業効果の年便益額の評価対象期間の総和)と費用(Cost;整備期間の事業費と評価対象期間の年間の維持管理費の総和)を比較して評価しました。
- ■便益及び費用は評価時点を基準に現在価値化(4%の割引率で金額の割引を行う、 過去に遡るときは割り増し)して比較して、投資した事業費に見合うだけの便益があ るか(B/C)で事業の妥当性を評価しました。



4-1 総合耐用年数の考え方

総合耐用年数(施設整備完了後の評価期間)=44年

本事業では、「減価償却資産の耐用年数等に関する省令」をもとに、各対策の耐用年数を以下のように設定しました。

	耐用年数	
宇陀川浄化施設	①副ダム	50年
	②ビオトープ	20年
その他施設	③浮島	15年
	④水質自動監視装置	10年

[※]工種ごとの費用による加重平均から、総合耐用年数を算出する。



名称	内容	手法の適用性
CVM	アンケート等を用いて事業効果に対 する住民等の支払意思額を把握し、 これをもって便益を計測	全ての便益を一括評価することが可能 また、トラベルコスト法などの方法 では評価が困難な非利用価値、環境 の価値などの評価が可能
代替法	評価対象とする事業と同様な便益を もたらす他の市場財で代替する場合 に必要な費用で当該事業のもたらす 便益を計測	本事業の便益と同等の効果を有する 一般市場の価格から求めることが可 能
ヘドニック 法	事業がもたらす便益が土地資産額に すべて帰着すると仮定し、事業実施 に伴う土地資産価値の増額分で便益 を計測	本事業の便益が地価に影響を及ぼすとは考えにくい
TCM (トラベル コスト法)	対象施設等を訪れる人が支出する交 通費や費やす時間の機会費用を求め、 これをもって便益を計測	景観の改善等の非利用価値について は、評価できない

内容の出典:「河川に係る環境整備の経済評価の手引き(試案)」(河川に係る環境整備の経済評価研究会 H12.6)

赤枠:選定した手法

4-3 効果の算定

アンケート調査を用いるCVM(仮想市場法)により効果を把握しました。

アンケート調査手法	・効率な調査を実施できるインターネット調査 ・調査プロバイダーに登録しているモニターにアンケートの 調査依頼 メールを送信し、プロバイダーのサーバーにアクセスし、アンケートに回答 インターネットアンケートのイメージ モニター 登録モニターに回答依頼をメール通知 Webで回答
配信数	1,707票
回収数	506票
有効票	452票 「CVMを適用した河川環境整備事業の経済評価指針 (案)」に基づく有効回答数300票以上を確保

・アンケート調査の範囲

からの距離が10km圏内で、かつ給水範囲を 受益範囲として設定しアンケート調査を実 施しました。

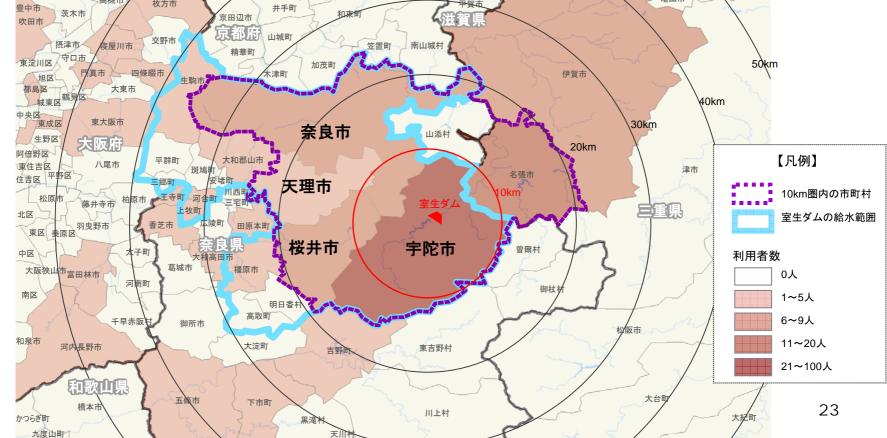
からの距離 (人) 室生ダムのダム湖利用者が多い、ダム湖 宇陀市 奈良市 桜井市 10km圏内 天理市 山添村 17 名張市 63 10km圏外 その他 合計 146 【宇陀市、奈良市、桜井市、天理市】 出典)H18室生ダム湖利用実態調査 枚方市 茨木市 京田辺市 京都府 山城町 交野市 南山城村 笠置町

室生ダム

市町村名

利用者数

給水範囲



アンケートの例(事業あり、事業なしの状況の説明)

【状況A】

取り組みを実施しない場合

- ●ダム湖に、水道水のカビのような臭い の原因となる、アオコが発生すること が時々あります。
- ●ダム湖には、時々アオコが発生し、 下の写真Aのように水面が緑色の 状態になることがあります。
- あなたの世帯の負担金はありません。



アオコ発生

【状況B】

取り組みを実施する場合

- ●ダム湖に、水道水のカビのような臭いの原因となる、アオコの発生がなくなります。
- ●ダム湖にはアオコが発生すること がほとんどなくなり、下の写真Bの ように水面は透明感があります。
- あなたの世帯から負担金が必要であると仮定します



アオコなし

4-4 支払意思額の算定

アンケート調査票で提示した効果は、「本事業」と「水環境改善事業」の2つの事業によりあいまって発生する効果であるため、支払意思額を両事業費の比率で按分し、本事業の支払意思額を算出しました。

	事業費	比率	支払意思額
	(百万円)	(%)	(円/世帯・月)
全体	1	100%	699
貯水池水質保全事業	4, 000	91%	636
水環境改善事業	398	9%	63

4-5 年便益の算定

年便益は、アンケートから算定した支払意思額に、受益範囲の世帯数と 12ヶ月を乗じることにより約1,506百万円と算定しました。

年便益額=支払意思額×12ヶ月×受益範囲の世帯数

支払意思額	受益範囲の世帯数※	年便益
(円/世帯・月)	(世帯)	(百万円/年)
636	197, 306	1, 506

※平成17年国勢調査より

4-6 総便益の算定

総便益は、年便益の合計を現在価値化して、以下の表のとおり算出しました。

	現在価値換算前	現在価値換算後
	(百万円)	(百万円)
年便益	1, 506	-
便益	66, 257	37, 647
残存価値	_	56
総便益	_	37, 703

4-7 総費用の算定

■総費用は、評価対象期間の事業費と維持管理費の合計を平成21年を基準 として現在価値化して、約6,978百万円と算出しました。

		現在価値換算前	現在価値換算後
		(百万円)	(百万円)
事業費		4, 000	6, 191
維持管理領	費	1, 377	787
合	計	5, 377	6, 978

[※]維持管理費は、浚渫費、電気代、点検整備代を計上した。



	算定の条件	備考
事業の工期	平成2年~平成16年	
評価対象期間	平成2年~平成60年	総合耐用年数から算定
基準年次	平成21年	
総便益(B)	37, 703百万円	割引率により現在価値化
総費用(C)	6,978百万円	割引率により現在価値化

[※]割引率は4%とした。

費用便益比 B/C ··· 5.40 ≥ 1.00

5. 事後評価の必要性

本事業の実施により、流入河川からのリン負荷を目標通り削減していることを確認しました。

しかしながら、依然としてアオコ等の発生がまだ見られるため、現在、事業を実施している「室生ダム水環境改善事業」とあわせ事後評価に諮ります。

6. 改善措置の必要性

事業効果の発現状況等から改善措置の必要性はないと判断しました。

ただし、アオコ等の発生がまだ見られるため、現在事業を実施している「室生ダム水環境改善事業」により、アオコ等の発生抑制をしていきます。

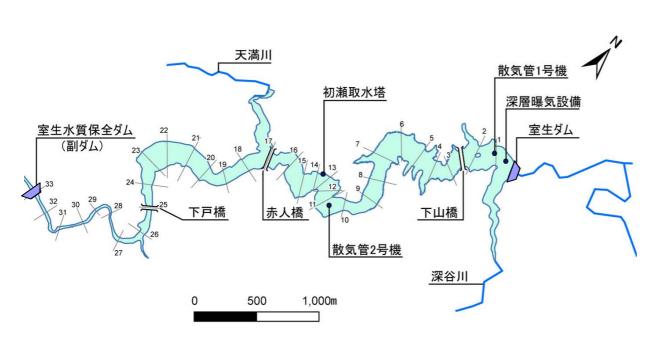


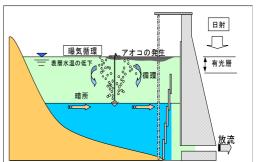
7. 同種事業の計画・調査のあり方や 事業評価手法の見直しの必要性

同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見 直しの必要性はありません。

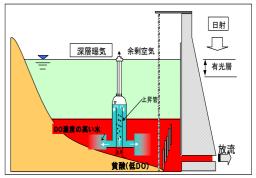
参考 室生ダム水環境改善事業(曝気装置)の概要

施設区分	形式	概要
浅層曝気 装置	散気式 2基	鉛直方向循環流を生じさせて、表層温度の低下及び日光が届 きにくい層へアオコを移動させアオコの発生を抑制する
深層曝気 装置	水没エアリフト式1基	嫌気状態による底層からの栄養塩類(T-P)の溶出を防ぎ、アオコの発生を抑制する





浅層曝気装置



深層曝気装置